

●かつては壮大な寺院

国富町の中心から西へ約八^{キロ}、高田原の西端が法ヶ岳地区で、ここに「薬師さま」と呼ばれる法華嶽薬師寺と法華嶽公園がある。

薬師さまは日本三薬師の一つ。古くから人々に親しまれている。寺伝によると八世紀初めの開基というが、中世から近世にかけては当時の権力者である伊東氏と島津氏の保護を受けて栄えた。

天保十四（一八四三）年編さんの「三国名勝図会」に収められている法華嶽寺の項には、薬師堂を含むいくつかの堂宇と回廊が描かれており、かつては壮大な寺院の様子をしのぶことができる。

しかし、その後は火災や廃寺（一八六七年）などで荒廃。一九七〇（昭和四十五）年、地元^の法華嶽薬師協賛会の尽力で奉藏庫と拝殿が建設され、今日に至っている。



法華嶽薬師寺。「薬師さま」として親しまれている

境内から東を望むと、眼下に高田原、薩摩原、六野原の台地が広がる。かんがい施設の整った畑作地帯で、夏は葉タバコの緑、冬には千切り大根の干し棚の白たえが季節の風物詩を奏でる。

法ヶ岳地区は九州山地と宮崎平野の接点にあたる。地形に限らず、異質な地域の接点に集落をつくるのは、人間の営みに共通の原理といつてよいが、法ヶ岳地区の山地と平野の接点は、ここから北に日向市美々津付近まで伸びている。日向国の古い幹線道路はほぼこの接点、もしくはその近くをルートとし、やがて薩摩、肥後へと向かうのだから、法華嶽薬師寺はまさに枢要の地に位置していたことになる。

今は幹線ルートから遠く西に隔てられてしまった法ヶ岳に、かつては壮大な規模の寺院が建立されたり、泉式部伝承が残る理由もうなずけるものがある。

法華嶽公園は今では薬師さまを中心にスポーツ・レジャーランドとなっている。国有・町有の林野三百三十^{ヘクタール}の敷地には、九州自然歩道や日本庭園をはじめ、グラススキー場、キャンプ場、グラウンドゴルフ場、テニスコートなどの施設が設けられ、多くの行楽客が訪れる。近年は宮崎市をはじめ、近郊小中学校の遠足の場ともなっている。

日本庭園の背後に連なる丘は、菜の花やコスモスが季節を彩る。九州山地の深い緑を背景に、夕日が逆光となって花の丘の輪郭に光芒（こうぼう）を放つ眺めには、格別なものがある。地元で作られる「法華嶽うづら」は、本県を代表する郷土玩具である。

杉尾良也